

【資料】

公民科教育実習終了者のICT活用指導力
— 大学入学時と教育実習終了時の間の変化とその要因 —

ICT use and teaching ability at the end of the teaching practice
in case of Civic Studies students

— Changes between the time of entering university and the end of teaching practice
and its factors —

三村 和則

Kazunori MIMURA

1. 問題設定

教職課程学生に対する情報機器の活用力形成が盛んに求められるようになった。

「教職に関する科目」では従来から「教育の方法及び技術」に係る科目を設定する場合、講義内容に「情報機器の活用を含む」ことが必須となっている。そしてこの度教育職員免許法が改正され、2019年度入学生からは「各教科の指導法」に係る科目（教科教育法科目）にも「情報機器の活用を含む」ことが必須となった。

「情報機器の活用を含む」とは、情報機器の操作を具体的に指導するものではないが、^(注1)新免許法下で導入される「教職課程コアカリキュラム」によると、「教育の方法及び技術」に係る科目では、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する能力と生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成する指導法の理解が、「各教科の指導法」では、教科の特性に応じた情報機器の効果的な活用法の理解と授業設計に活用する能力の形成が、それぞれ求められている。^(注2)

筆者は勤務大学（沖縄国際大学）で、「教育の方法及び技術」に係る科目である「教育課程・教育方法」（筆者のみが担当）と「各教科の指導法」に係る科目である高校公民科のための「社会科・公民科教育法」及び「社会科・公民科教育法演習」（模擬授業科目）を長年担当してきている。前者の「教育課程・教育方法」を担当しながら、「情報機器の活用を含む」ということをめぐって考えてきたことが2つあった。1点目は、情報機器の活用力形成は、「教育課程・教育方法」という講義の中でよりも、教科教育法演習での模擬授業という具体的な実践の中でこそ行われるのではないかということである。この点については、今回の教育職員免許法改正ではその考え通りになった。この点では今回の改正は歓迎したい。2点目は、学生の中には入学時点で情報機器の活用力をある程度身につけている者がいるのではないか、また入学後の共通科目や所属学科の講義・演習での様々な機会を通してその能力を身につけているのではないか、その実態を踏まえておく必要がある、ということである。

そこでこのような事情を背景に、本研究では情報機器の活用力について、4年間の教職課程を修了しようとしている学生はその能力をどの程度身につけているのか、また、その能力は入学時点で既に身につけていたものなのかどうか、そうでない場合、4年間（正確には3年と3ヶ月）でどのようにして身につけたのかを明らかにすることを目的としている。そしてその結果を、新免許法下の「教育課程・教育方法」と「社会科・公民科教育法」と「社会科・公民科教育法演習」の3科目の指導内容の改善に活かすことにしたい。

2. 研究方法

2017年6月に教育実習を終了した公民科ゼミ学生11名（前年度「社会科・公民科教育法」「社会科・公民科教育法演習」受講の学生）を対象に、「公民科学生のICT活用指導力調査」のアンケートを行った。

このアンケートは、「教員のICT活用指導力の基準の具体化・明確化に関する検討会」^(注3)が策定した「教員のICT活用指導力のチェックリスト（中学校・高等学校版）」^(注4)を用いたものである。本チェックリストにある18のチェック項目の各々に関し、大学入学時点と教育実習を終了した現時点の2つの時点で、「4 わりにできる 3 ややできる 2 あまりできない 1 ほとんどできない」の4件法で自己評価を行うものである。大学入学時点については厳密には求めず回想でよいこととした。そして大学入学時点と比べて上達していた場合、上達した時期と機会（科目・課外活動・アルバイト・他）について、は具体的に記述するようにした。^(注5)

調査期間は2017年7月の1月間とした。回答は11名中10名から得ることができた。

3. 大学入学時と教育実習終了時の間のICT活用指導力の変化

回答を集計し、大学入学時と教育実習終了時の間の変化を示すため、得点化を行った。得点化の方法は、まず、回答番号1(ほとんどできない)、2(あまりできない)、3(ややできる)、4(わりにできる)について、それぞれ0点、1点、2点、3点を与えた。大学入学時に1(ほとんどできない)が、実習終了時に4(わりにできる)になっている場合、得点は3点－0点＝3点となる。次に、10人の得点を合算した。

その結果を示すと、「表1 公民科学生のICT活用指導力 大学入学時から教育実習終了時の変化(ポイントの変化)」のようになった。

まずわかることは、全項目について大学入学時点ではICT活用指導力をあまり身につけていなかったということである。次にわかることは、「A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」の伸長が著しいということである。以下、「B 授業中にICTを活用して指導する能力」に伸長が見られ、「D 情報モラルなどを指導する能力」「E 校務にICTを活用する能力」「C 生徒のICT活用を指導する能力」と続く。しかしD、C、Eの間にはそれほど差は見られない。

表1 公民科学生のICT活用指導力 大学入学時から教育実習終了時の変化（ポイントの変化） ●＝入学時、○＝教育実習終了時 ◎＝変化なし

チェック項目	ポイント												
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力													
1 教育効果をあげるには、どの場面にもコンピュータやインターネットなどを利用すべよいかを計画する。													○
2 授業で使う教材や資料を集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する。													
3 授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。													
4 評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童（生徒）の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。													
B 授業中にICTを活用して指導する能力													
1 学習に対する生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。													
2 生徒一人一人に課題を明確にかませるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。													
3 わかりやすく説明したり、生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。													
4 学習内容をまとめる際に生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。													
C 生徒のICT活用を指導する能力													
1 生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。													
2 生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。													
3 生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。													
4 生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図るように指導する。													
D 情報モラルなどを指導する能力													
1 生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。													
2 生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法な行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。													
3 生徒がインターネットなどを利用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。													
4 生徒が情報セキュリティに関する基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。													
E 校務にICTを活用する能力													
1 校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。													
2 教員間、保護者・地域との連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有を図る。													

Aを詳しく見ると、項目4の得点が低いことから、評価と結びつけてICTを活用する能力が身につけていないことがわかる。学生は評価される受動的な立場であることがほとんどで、評価を行う立場になる機会がほとんどないことに起因すると推察する。

Bを詳しく見ると、項目4の得点が相対的に低い。知識の定着を図るためには発問の他、練習問題に取り組みさせることが肝要である。このことから、練習問題でICTを活用する能力が弱いことが推測できる。この欠点は、公民科の授業自体が教科の性格上練習問題を解く機会が少ないということに起因するのではないかと推察する。

CとDの能力に共通しているのは、自分が直接ICTを活用するのではなく、生徒がICTを活用することを指導する（つまりICTに対して生徒を介し間接的に関与すること）という点である。生徒に教えるという機会自体に極めて乏しい学生には、ICT活用の能力形成を生徒に指導することは一層困難であるということが示されていると言えよう。

Eについても同様である。「教員間、保護者・地域の連携協力」を「友人・学友間の連携協力」と読み替えて回答することを促せば別の結果になったかもしれないが、そうではなかったため、学生には校務に関わる状況に置かれる機会がほとんどないことが、結果に反映していると考えられる。

4. ICT活用指導力形成の要因

次に、回答の内、大学入学時と教育実習終了時の間で変化（伸長）があった場合、その要因は何であったかを見てみよう。

アンケートでは、大学入学時と実習終了時の間で「上達していた場合、その時期と機会（科目・課外活動・アルバイト・他）」の記述をしてもらうことを企図した。しかし、時期の特定がなされていない回答と科目名称が不明確な回答がほとんどであった。そこで記述内容を整理し、〈普通の講義〉（教職科目や情報系の科目を除く一般の科目の普通の講義。演習も含む）、〈情報系の講義〉（専門科目の他、情報処理基礎などの共通科目も含む）、〈模擬授業〉（社会科・公民科教育法演習で実施）、〈教育実習〉、その他：〈教職科目講義〉（教科教育法科目と教育実習以外の教職に関する科目）、〈福祉実習〉（社会福祉専攻学生の相談援助等の実習）、〈インターンシップ〉、〈課外活動〉、〈情報系科目のSA（教育補助業務者）〉に分類した。そしてそれらを「大学入学時と実習終了時の間で変化の要因」、すなわち「ICT活用指導力形成の要因」と呼ぶことにし、時期は捨象することにした。

またその要因が記述された回数も、集計した。1つの項目の回答欄に複数の要因が出現することもある。その数はそのまま回数として集計した。

その結果を一覧にまとめると、表2「公民科学生のICT活用指導力形成の要因」のようになった。

表2の分析の前に、各要因の具体的なイメージを捉えてもらうために、代表的な記述を挙げておきたい。

〈普通の講義〉

レポートのための資料や情報収集の手段の一つとしてインターネットをかなりの頻度で利用した。
ワープロソフトやプレゼンテーションソフトは大学の普通の講義で活用していたので、自然にある程度身についた。

〈情報系の講義〉

情報処理基礎でエクセルの使い方を学んだ。

情報産業論という講義でサイバー犯罪などについて学習した。

〈模擬授業〉

授業で使う資料やワークシート作成でワードソフトを利用した。

youTubeからの動画を教材として活用した。

コンピュータで検索した画像を大判用紙でコピーした。

教材研究でインターネットを利用した。

指導案作成のためにワードやエクセルの使用機会が多くなった。

〈教育実習〉、

インターネットで教材研究のための情報や材料を集めた。

プライバシーの権利、知る権利、SNSや通販の範囲を授業した際、生徒に指導できた。

〈教職科目講義〉

教職研究Ⅱのディベートでネット犯罪の危険性を扱ったグループがあった。

情報処理基礎や特別活動研究などの講義で学んだ知識があればワープロソフトを活用し、学級通信などは作成できると思う。

〈福祉実習〉

実習報告会や日誌作成でプレゼンテーションソフトやワープロソフトを使用した。

〈インターンシップ〉

成果発表をプレゼンテーションする機会があり、パワーポイントをよく使うようになった。

毎月のイベントのため、集客情報を管理する機会があった。

〈課外活動〉

提案の中身を考えるアイデア集めとしてインターネットを利用するようになった。

〈情報系科目のSA〉

質問のある学生のサポートを行った。

表計算やグラフ作成のサポートを学生に対し行った。

以上の具体的な記述から、〈普通の講義〉や〈模擬授業〉、〈教育実習〉での情報収集・教材研究の際インターネットに多くを依存している望ましくない傾向のあることが垣間見られる。〈教育実習〉や〈模擬授業〉ではプレゼンテーションソフトを使う機会が少ない。また、次の表2の分析と関わるが、「D 情報モラルなどを指導する能力」に出てくる〈教育実習〉については、実習校での授業範囲が偶々

表2 公民科学生のICT活用指導力形成の要因（数字は回答に出現した回数）

A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	
1 教育効果をあげるには、どの場面にとのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。	普段の講義3、情報系の講義1、模擬授業1、模擬授業3、教育実習1
2 授業で使う教材や資料などを集めるために、インターネットやCD-ROMなどを活用する。	普段の講義4、模擬授業7、教育実習3、課外活動1
3 授業に必要なプリントや提示資料を作成するために、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	普段の講義5、模擬授業4、教育実習1、福祉実習1、インターンシップ1
4 評価を充実させるために、コンピュータやデジタルカメラなどを活用して児童（生徒）の作品・学習状況・成績などを管理し集計する。	情報系の講義1、インターンシップ1
B 授業中にICTを活用して指導する能力	
1 学習に対する生徒の興味・関心を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	模擬授業4、教育実習2
2 生徒一人一人に課題を明確につかませるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	模擬授業1、教育実習2
3 わかりやすく説明したり、生徒の思考や理解を深めたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	模擬授業1、教育実習2
4 学習内容をまとめる際に生徒の知識の定着を図るために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などをわかりやすく提示する。	教育実習1
C 生徒のICT活用を指導する能力	
1 生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり選択したりできるように指導する。	教育実習1、情報系科目のSA1
2 生徒が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べた結果を表計算ソフトで表やグラフなどにまとめたりすることを指導する。	情報系科目のSA1
3 生徒がコンピュータやプレゼンテーションソフトなどを活用して、わかりやすく説明したり効果的に表現したりできるように指導する。	教育実習1、福祉実習1、課外活動1
4 生徒が学習用ソフトやインターネットなどを活用して、繰り返し学習したり練習したりして、知識の定着や技能の習熟を図れるように指導する。	
D 情報モラルなどを指導する能力	
1 生徒が情報社会への参画にあたって責任ある態度と義務を果たし、情報に関する自分や他者の権利を理解し尊重できるように指導する。	普段の講義1、教育実習1、教職科目講義1、インターンシップ1
2 生徒が情報の保護や取り扱いに関する基本的なルールや法律の内容を理解し、反社会的な行為や違法な行為などに対して適切に判断し行動できるように指導する。	普段の講義1、教育実習2
3 生徒がインターネットなどを利用する際に、情報の信頼性やネット犯罪の危険性などを理解し、情報を正しく安全に活用できるように指導する。	情報系の講義1、教育実習1、教職科目講義1
4 生徒が情報セキュリティに関わる基本的な知識を身に付け、コンピュータやインターネットを安全に使えるように指導する。	情報系の講義1、教育実習1
E 校務にICTを活用する能力	
1 校務分掌や学級経営に必要な情報をインターネットなどで集めて、ワープロソフトや表計算ソフトなどを活用して文書や資料などを作成する。	情報系の講義3、教職科目講義2
2 教員間、保護者・地域の連携協力を密にするため、インターネットや校内ネットワークなどを活用して、必要な情報の交換・共有化を図る。	

* 要因 普段の講義(教職科目や情報系の科目を除く一般の科目の普段の講義。演習も含む)、情報系の講義(専門科目の他情報処理基礎などの共通科目も含む)、模擬授業(社会科・公民科教育法演習で実施)、教育実習、その他: 教職科目講義(教科教育法と教育実習以外の教職に関する科目)、福祉実習(社会福祉専攻学生の相談援助実習等)、インターンシップ、課外活動、情報系科目のSA(教育補助業務者)

「プライバシーの権利」や「知る権利」だったことから来ていることがわかる。

さて、表2から、表1で「ポイントの変化」が大きい項目、すなわち能力の伸長が4年間で著しい項目では、要因の種類と出現回数が共に多い傾向にあるということがわかる。例えば、「A教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」の内、項目1、2、3は4年間での能力の伸長が著しいが、それだけその要因の種類が多いし、個々の要因の出現回数も多い。一方「C生徒のICT活用を指導する能力」は4年間での能力伸長があまり見られないが、それだけその要因の種類も限られ、出現回数も少ないことがわかる。

要因を出現回数順に並べると次のようになった。(模擬授業)が20、(教育実習)が19、(普通の講義)が14、(情報系の講義)が7、(教職科目講義)が4、(インターンシップ)が3、(福祉実習)、(課外活動)、(情報系科目のSA)がそれぞれ2となった。ここから、能力伸長に(模擬授業)と(教育実習)の貢献度が高いことがわかる。同時に、(普通の講義)の貢献度も一定程度高いことがわかる。インターンシップを挙げた者は1名だけだったが、実際の職場で情報化が進展し情報機器を使う機会が多いことから、能力形成への影響が大きかったようだ。

要因の分布を見ると次のような特徴があった。能力伸長に貢献度の高かった(模擬授業)が「A教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」と「B授業中にICTを活用して指導する能力」に偏在しているということである。そのため生徒にICT活用や情報モラルを指導したりする能力や校務にICTを活用する能力には、貢献していないということである。この点は、それだけ(模擬授業)というものが、よくも悪くも、当座の教科内容の理解とそれに関連する能力や関心の形成を指導目標とする、いわばオーソドックスな授業づくりに焦点化されているということの証左でもある。

5. まとめ

本研究では教職課程学生の情報機器の活用力について、教育実習を終了した公民科ゼミ学生を対象に「教員のICT活用指導力のチェックリスト」を借用し調査した。本研究の「問題設定」に照応させてまとめを行いたい。

4年間の教職課程を修了しようとしている学生がICT活用指導力をどの程度身につけているのかについては、「教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」と「授業中にICTを活用して指導する能力」を身につけている。しかしその中であって、評価と結びつけてICTを活用する能力や練習問題でICTを活用する能力は身につけていない。「生徒のICT活用を指導する能力」「情報モラルなどを指導する能力」はあまり身につけていない。「校務にICTを活用する能力」は特に身につけていない。このような傾向のあることがわかった。

その能力は入学時点で既に身につけていたものなのかどうかについては、総ての能力について大学入学時点ではまだあまり身につけていなかったということがわかった。このことから教育実習終了時点で身につけている能力というのは、大学4年間の学修の成果であることがわかった。

それでは、4年間の学修過程でどのようにしてICT活用指導力を身につけたのだろうか。この点については、いくつもある要因の中で〈模擬授業〉と〈教育実習〉の貢献度が大きく、〈普段の講義〉の貢献度も一定程度大きいことがわかった。〈インターンシップ〉を挙げた学生は1名だったが、貢献度が大きかったことには注目しておきたい。また当然であるが、要因の種類や機会が多いほどその能力を身につける傾向があった。

以上の結果は、新免許法下の「教育課程・教育方法」と「社会科・公民科教育法」と「社会科・公民科教育法演習」の3科目の指導内容の改善にどのように活かすことができるだろうか。

まず言えることは、ICT活用指導力形成には〈普段の講義〉の役割がやはり大きいので、これら3科目の中だけで身につけようとする必要はないということである。

次に言えることは、模擬授業のICT活用指導力形成に果たしている現状の役割を維持しつつ、一方で、模擬授業やそれと密接に関係する教育実習での教材研究でインターネットに過大に依存する傾向があるので、その点を戒めながら、他方で、模擬授業でプレゼンテーションソフトを使う機会が少ないことから、その使用機会を増やす必要があるということである。

さらに言えることは、評価や練習問題でICTを活用する能力、生徒にICT活用を指導する能力、生徒に情報モラルを指導する能力及び、校務にICTを活用する能力の形成も課題であったので、3科目がこの課題をどう引き受けるかを考える必要があるということである。

この点については、「情報機器の活用」が意味する内容を「教職課程コアカリキュラム」の文言から判断すると、この内、評価でICTを活用する能力と校務にICTを活用する能力は、3科目の守備範囲から除外してよいと思われる。これらの能力についての言及が見られないからである。

それでは、残りの練習問題でICTを活用する能力と、生徒にICT活用を指導する能力と、生徒に情報モラルを指導する能力の形成についてはどうだろうか。これも「教職課程コアカリキュラム」に従うと、生徒にICT活用を指導する能力と生徒に情報モラルを指導する能力については、その能力自体の育成ということではなく、生徒にその能力を育成する指導方法の理解を授けることに留まってよいということになっている。

このように考えると、科目の性格上、「社会科・公民科教育法演習」（模擬授業）では練習問題でICTを活用する能力の形成に取り組むことが適切である。残りの、生徒にICT活用を指導する能力と生徒に情報モラルを指導する能力を育成する指導方法の理解を授けることは、「社会科・公民科教育法演習」（模擬授業）の中でも行うが、「社会科・公民科教育法」と「教育課程・教育方法」でより意識的にコミットしていくが必要になるだろう。

注

- (1) 文部科学省による教職課程再課程認定説明会(2017年実施)で配付の「質問回答集 10月27日」のNo.124によると、「情報機器の活用を含む。」の解釈は次の通りである。(下線は筆者)
質問事項：情報機器及び教材の活用については、教科の指導法にも含めることになったが、これは、当該教科に関するPC教材、電子教材をどのように情報機器を使って指導に含めていくか、ということを行うもので、必ずしも情報機器の操作を指導するのではない、ということでよいか。
回答：御質問のとおり。

- (2) 「教職課程コアカリキュラム」からの関係部分の抜粋は次の通りである。(下線は筆者)。

教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

(3) 情報機器及び教材の活用

一般目標

情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。

到達目標

- 1) 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
- 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。

各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

到達目標

- 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

- (3) 文部科学省が、「IT新改革戦略」(2006年1月IT戦略本部決定)に基づき、教員のICT活用指導力の基準の具体化を図り到達目標を明確にするために設置。
- (4) チェックリストは、2007年2月に策定。小学校版と中学校・高等学校版の2種類がある。A「教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」、B「授業中にICTを活用して指導する能力」、C「生徒のICT活用を指導する能力」、D「情報モラルなどを指導する能力」、E「校務にICTを活用する能力」の5つの大項目と、18のチェック項目から構成されている。なお情報機器の発展のスピードは速いため、2007年策定の本チェックリストの有効性について疑義の出ることが予想される。しかし次の論文に見られるように、それは杞憂である。すなわち2016年3月の「メディア・リテラシー学修による教員のICT活用指導力への効果」(東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要第12集)でも、現職教員が教員免許更新講習会においてメディア・リテラシーを学習することによる、教員のICT活用指導力の変化を、本チェックリストを用いて調査・検討している。

(5) アンケートの体裁は、次の通りである(冒頭部分抜粋)。

公民科学生のICT活用指導力調査 調査票 (2017年7月)

18の項目に関し、大学入学時点(回想して)と教育実習を終了した現時点について、自己評価をお願いします。

上達していた場合、その時期と機会(科目・課外活動・アルバイト・他)について、具体的に記述してください。

評価の数字は、次の通りです。

4 わりにできる 3 ややできる 2 あまりできない 1 ほとんどできない

A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力

A-1 教育効果をあげるには、どの場面にどのようにしてコンピュータやインターネットなどを利用すればよいかを計画する。

大学入学時	4 3 2 1
	↓
実習終了時	4 3 2 1

上達していた場合、その時期と機会(科目・課外活動・アルバイト・他)

4件法の内容は、「教員のICT活用指導力のチェックリスト(中学校・高等学校版)」のチェックの4段階をそのまま用いた。

18のチェック項目の説明については、イラストを使った「教育の情報化に関する手引」(案)があり、それを用いた。それは、調査研究協力者会議等(初等中等教育)のひとつである「教育の情報化に関する手引」作成検討会(2008年10月14日から平成2009年3月31日まで)の2009年2月20日(第5回会議)配付資料である。参照:

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/056/gijigaiyou/attach/1259389.htm

(最終参照日2017年12月5日)。

要旨

学生は4年間の教職課程で「教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」と「授業中にICTを活用して指導する能力」を概ね身につけた。しかし評価や練習問題と結びつけてICTを活用する能力は、あまり身につけていない。生徒にICT活用や情報モラルを指導する能力、校務にICTを活用する能力もあまり身につけていない。

ICT活用指導力形成に大きく貢献したのは、模擬授業及び教育実習と、教職科目や情報系の科目に限らない一般の科目の普通の講義であった。

講義内容に「情報機器の活用を含む」ことが必須となっている新免許法下の「教育課程・教育方法」と「社会科・公民科教育法」と「社会科・公民科教育法演習」（模擬授業）の3科目の指導内容について、次の点が示唆される。

ICT活用指導力形成には一般の講義の役割も大きいため、3科目だけの課題とする必要はない。模擬授業では教材研究でインターネットに過大に依存する傾向を戒め、他方でプレゼンテーションソフトを使う機会を増やす必要がある。また、模擬授業では練習問題でのICT活用の能力形成が必要である。さらに、3科目に共通して、生徒にICT活用と情報モラルを育成する指導方法の理解を育てることにより意識的に取り組むことが必要である。評価や校務にICTを活用とする能力は3科目の守備範囲外である。

キーワード：情報機器の活用、教育の方法及び技術、各教科の指導法、教員のICT活用指導力

ICT use and teaching ability at the end of the teaching practice in case of Civic Studies students

— Changes between the time of entering university and the end of teaching practice
and its factors —

Kazunori Mimura

Abstract

Students approximately acquired “ability to use ICT for teaching materials research and teaching preparation and evaluation” and “ability to teach using ICT during class” in teacher training courses for 4 years. However, the ability to use ICT in conjunction with evaluation and exercises is not very well educated. Students also do not have the ability to teach ICT use and information morals, and the ability to use ICT for school affairs.

What contributed greatly to ICT use and teaching ability were simulated lessons, teaching practice and the usual lecture of general subjects not limited to teaching subjects and information related subjects.

For three subjects ; ” Curriculum and Educational Method” , “Social Studies / Civic Studies Education Method” and “Social Studies / Civic Studies Education Method Exercises (simulated lessons)” under the New Education Staff License Act, which are commonly required to include “the utilization of information equipment” in the content of the lecture, the following points are suggested.

Because general lectures also contribute greatly to form the ICT use and teaching ability, it is not necessary to achieve the task with only these three subjects. In simulated lessons, we warn the tendency to rely excessively on the internet in teaching material research, and on the other hand we need to increase the opportunities to use presentation software. The ability to use ICT in exercises should be raised in simulated lessons, the ability to teach ICT use and to teach information morals should be included in “Social Studies/Civic Studies Education Method” and “Curriculum and Educational Method” . The abilities to use ICT in evaluation and to use ICT for school affairs fall outside the defense range of these three subjects.

Keywords : utilization of information equipment, teaching method and technology, teaching methods of each subject, teacher’s ability to use and teach ICT